

2020 年度国際ユース作文コンテスト

【若者の部】 優秀賞

映画で目にしたように

(原文は英語)

ジュリア・ペイショット・フェルナンデス (17 歳)

ブラジル・リオ・デ・ジャネイロ州

セスク高等学校

ブラジル、2030 年 1 月 1 日

ペイショットへ

マヤ歴のカレンダーの予言通り、世界は 2012 年までに終わるとずっと思っていた。父さんの車に乗って、窓越しに夜空を見つめ、人類の存在がどんなふうにも消滅するか想像したのを覚えている。2012 年が終わったとき、私たちはまだ存在していた。そのとき気づいたのは、人類を滅亡させるものは遠くからやって来るわけではなく、すでにここにあるということ。それは、私たちの共感の欠如、憎しみ、偏見。そして人類を救えるのは、私たちが団結できた場合だけだということ。

あなたはもちろん、こんな分析をすでにしたことがある。私、というか私たちが 17 歳だった頃は、世界に存在する不平等を受け入れることができなかったから。でも、本音を言ってしまうと、南米の国で人種が混ざった家庭に女の子として生まれただけでは、人種、性別、社会的地位、性的指向、性同一性のために、誰かが最悪の扱いを受けねばならない理由は決して分からない。

私たちはもう、過去に多くの人がしていたように、不可解なことを受け入れたり、恐ろしい差別を正当化しようとしたりする必要はない。そう、私たちが思い描いた一番素敵な夢や希望の中でさえ、私たちの世界がこうなるなんて、垣間見ることはできなかった。今は何もかも違うの、ジュリア！ あなたは、私たちが苦勞の未実現した変化にとっても驚き、嬉しくて圧倒されるだろう。

私たちがずっとそう信じていたとおり、変化のプロセスは教育を通じて始まった。学校教育は、全学年でみんなが無償で受けられるようになり、公的教育とユネスコの取り組みにより、誰もが同じように勉強できる可能性に恵まれ、そのおかげで、大学入学や就職はこれまでよりずっと公平な条件で行われている。なにしろ、仕事のキャリアのスタートラインはどの学生にとっても同じだから。さらに、教育は優れていて、人種、宗教、ジェンダーに関する学習や、人それぞれの個性となる違いの尊重、理解と受容が含まれている。

教育が民主化された結果、科学も大きく進歩した。現在、世界は再生可能エネルギーのみに支えられていて、社会を脅かす病気は治療可能になり、感染症の世界的大流行発生を防ぐワクチンが全員に無

料で提供されている。

同様に、基本的人権としての医療が世界中に普及して、経済的な理由で受けられない治療のため、長い列を作って待つ必要がなくなった。戦争地帯や恵まれない地域に見られたような、医薬品の不足はもう起こらない。すべての人間が、提供される医療を受け、尊厳をもって生きることができている。

さらに、芸術や文化の表現が基本的権利として高く尊重され、社会生活に欠かせないものと見なされている。そうなの、ジュリア！ 芸術が社会を再建する重要な要素と考えられる日がくるなんて、まったく思わなかったけれど、今の時代はそうなっている。記憶を保存し、将来の経験への道を開く上で、あらゆる形の芸術が持つ重要性をあなたは常に感じていた。未来のあなたの仕事はそれ。夢見ていたとおり、映画監督兼活動家になっているの。

私たちは映画を通じて、以前はフィクションでしかなかった社会の変化を記録した。公平で公正なコミュニティになるために社会が踏んできたステップが、私たちのカメラと心に永遠に記録されている。私たちが監督した映画は、社会関係や権利行使の不平等に抗議する作品で、今では私たちの映画が、憎悪や不正が過去に人々をどこに導いてきたか思い出させてくれる。

芸術が持っている、変革の力を忘れてはだめ。きっと正しい道に進む手助けをしてくれる。映画と同じように、冒頭のシーンで下した決断が物語の最後まで影響することを忘れないで。私たちの映画は、起こったこと、忘れ去られることのないものを記録する大切な証拠。人間の過去の過ちや間違っただ判断について知ることは、それを再び起こさないために役立ってくれるから。さもないと私たちの歴史は、過ちと不作為のくり返しになってしまう。

どんな権利も当然のものと思わないで、ジュリア！ 理想の環境になった今でも、私たちは戦いを続けている。もう誰も、二度と苦しむことがないように。

人類が実現できる変化に大いなる希望を抱いて

ジュリア・ペイショット